



Save The Earth

地球温暖化について

空

空

気のような存在、と言った場合あまり存在感がないといったような軽く使われる場合が多いのですが、最近はお空つまり大気存在感が重くなってきたような気がします。温室効果ガスやフロンガスなど大気に目を向けることが多くなってきました。

太陽エネルギー（日射）は地球全体に
一様に当たっていますが、地球自転に
より昼と夜があり、赤道付近と極付近
では日射の角度が違うので、同じ地球
表面積に当たる日射の量が違います。
従って地球表面に暖かい所と寒い所が
生じます。そうすると熱が移動しなけ
ればなりません。昼夜の差は勿論です
が高緯度と低緯度で差ができます。熱
を運ぶ働きは大気の移動つまり風と海
流が行います。風は複雑な海陸の分布
があるので地域的な風の交流はありま
すが、一方、地球全体としての大気の
大きな循環があります。北半球と南半
球はおおかた対称になっておりますが
北半球では低緯度、中緯度、高緯度の
3つの大気の循環系があって、北半球
では低緯度で北東貿易風、中緯度で偏
西風、高緯度で極偏東風というふう
に地球規模の大循環がおこなわれて
います。地表を移動した大気は上空では反対方
向へ流れて地表の大気を埋め合わせて
います。

熱は南から北へ、北から南へなぜ直接移動しないかというと、地球は自転しているので地球上の物体にはいつも転向力(コリオリの力)という力が働いています。その大きさ(F)は次の式で表されます。転向力 $F \parallel 2mV \sin \phi$ (m …移動物体の質量、 V …移動物体の速さ、 ω …地球の自転の速さ、 ϕ …緯度)。つまり移動物体の速さ(V)とその地点の緯度(ϕ)のサインに比例します。我々は地球と一緒にまわっているので全く感じませんが、日本付近では秒速380メートル位のスピードでいつも走っていることになりました。それでロケットやミサイルを発射するときは地点に合わせて方向を補正しなければなりません。

ペルー海流(フンボルト海流)の海水の表面温度が高くなることがあります。これは毎年のことですが、これをペルーの漁師達はスペイン語でエルニーニョ(神の子)と呼んでいます。これは一時的ですが、半年とか一年以上続くと「エルニーニョ現象」といって遠く日本の気象には勿論世界中の気象に異常をきたすことがあります。

エルニーニョ現象と反対の現象でペルー沖の海水温が平年より低くなる現象を「ラニーニャ現象」といいます。エルニーニョとラニーニャ(女の子)という意味は最近ではそれぞれ4年ごとに起きているますが日本では大暖冬が起きたりヨーロッパやアメリカは洪水や豪雨が発生したりしたことがあります。温暖化との関連はよく分かっています。地球の温暖化が影響しているという報道もありましたがまだ科学的には解明されておられません。

歴史調査の楽しみ方

復

習の4回目です。南側主軸尾根と、その南縁に位置する「小山Ⅰ」・「小山Ⅱ」を取り上げます。

南側主軸尾根は、I郭の山頂から南側へ延びる痩せ馬^{うま}地形です。多くの場合、このような個所では、複数の堀切^{ほりきり}が設置されています。尾根を真一文字に断ち切り、縁に土塁^{とゐ}を積むことで、バリケードのような防禦施設ができます。こうする事で、侵攻してくる敵勢のなだれ込みを、阻止することができます。

ところが、この尾根には、この類の堀切がありませんでした。結局、調査の進展により、尾根の南端から発見された大規模造りの「武者溜まり」が、事実上の南限縄張りで、堀切の役目も果たしたとの推論に落ち着きました。

さらに、周辺の小山Ⅰ・Ⅱも、南域の守りを補った場所と推定されます。小山Ⅰは、前述の武者溜まりから西側へ、約170 m入り込んだ所にあります。両者を繋ぐ山道は、重機で拡張さ

ひ
び
じょう
あと

日
平
城
跡
30

れています。この地は谷を挟んで、小山Ｃ―１が対峙たいじしており、武者溜まりをセツトとする二方所で、南縁の防衛ラインが形成されている事が分かります。実際、小山Ⅰの西側尾根には、造成の痕跡が確認できます。

小山Jは、そのダメ押しとも言える縄張りです。小山Iの南側に小谷を挟んだ所にあります。林道の終点地からは、尾根伝いに山道が通じています。両者間の距離は、約140mで、城跡地の最南端にあたり、中心区画は、標高298・8m。小山Iの頂きとの高低差は、プラス6mになります。頂きの場合は、東西の長さ28・5mで、最大幅9m。尾根は、ここから北西側へ緩傾斜しており、全面、造成されています。

今回の3年近くに及ぶ調査では、日平城跡の縄張り^{なわば}の解明のために、花牟礼^{はなむれ}山の全域を調査しました。その結果、末端部の小山でさえ、縄張りの中に、取り込まれている事が分かりました。これから、調査資料を細かく分析して

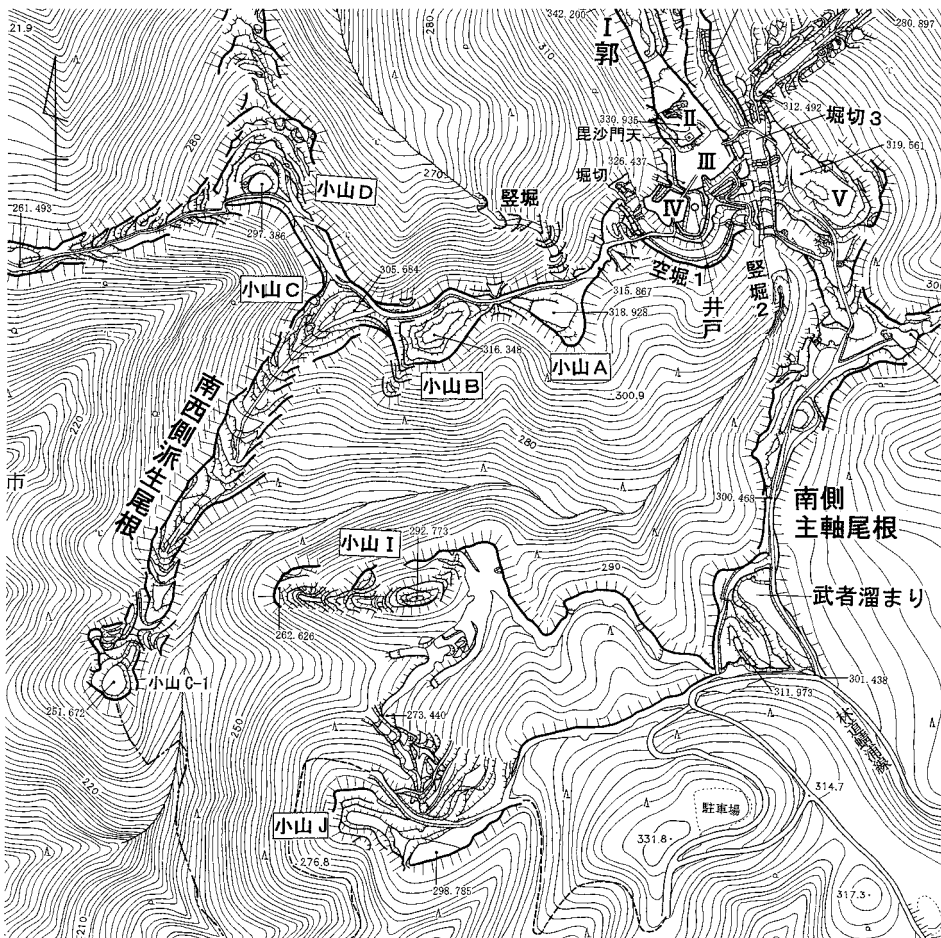
今年度中に調査報告書を作成したいと思います。

なお、この事に先駆けて、完成した

縄張り図を掲載した「日平城跡・案内板」が、平成23年度末に、城内のⅢ郭に設置されました。

大田幸博

(元・菊水町史編纂委員会副委員長)



日平城跡 南側主軸尾根～小山 I・J